

建築士（会）の周知

事業名称：海岸漂着物でオリジナルランプづくり・上越の今昔写真展



(左) 猛暑の中でのゴミ拾いin船見海岸



(右) 工作した流木ランプ

きつかけ
上越の海岸には海から沢山のゴミがある。近年問題
視されるプラスチック系のゴミが打ち寄せられ
過した後は、なぜか大量の流木が打ち寄せられ
る。その流木を活用できないか？と考えた。

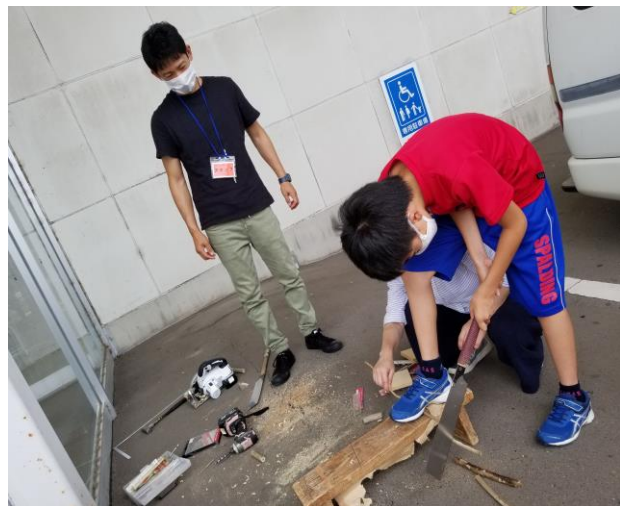
海岸漂着物でオリジナルランプを作ろう

開催状況

ゴミ拾いでは、マイクロプラスチックが普通にたくさん落ちていたことが印象的であった。

ランプづくりでは、地元高校生にも参加してもらい、木の組み方のコツなどアドバイスしてもらった。小学生らが会員大工に対して「この長さに切って」と行列ができた。自らノコギリで切り出したりしていた。

試行錯誤しながら夢中に工作する姿を見て、ものづくりの楽しさが伝わった手応えを感じた。



ノコギリの使い方を教わりながら切る様子



同時開催で行った高田市街地の青田川でのランプのイベントに参加した。土手には行燈、川面にはLEDライトが浮かべられた。

成果と課題

活動成果

身近にあるものを活かした、既製品では感じることをできないものづくりの楽しさを伝えることができた。

今後の課題と計画

活動がメディアで報じられ、小学校から出前授業のオファーを受けた。今回のイベントをベースにバージョンアップしながら活動を広げていきたい。

事業情報

主催団体		他団体（上越総合技術高校）		助成	
☐	建築士会	☐			無
活動収支		収入		支出	
	24万（建築士の日予算）		24万（材料・会場費等）		協賛 0 社
来場者		運営側		参加者	
	建築士会 他団体 計		会員 建築士 一般 子ども 計 合計		
	12 7 19		0 0 14 17 31 50		
連携・協力組織		上越総合技術高校、上越市都市整備部都市整備課			

自己研鑽

事業名称：第二海堡（だいにかいほう）見学会



第二海堡のシンボルである灯台。当日は快晴で波も穏やか。1年に1度あるかないかの絶好の見学日和。

きつかけ

みなさんは東京湾に浮かぶ普段は立入禁止の明治期の人工島が千葉県富津市にあるのをご存知でしょうか。地元にも実は行ったことのないスポットを見学し、地元の歴史理解の深化、それを通じた会員の連携強化を図るため、見学会を行いました。

地元の非日常を体験



見学した年に発掘・公開された地下要塞。城の石垣の積み方を応用。
東京駅と同時期に完成した焼き過ぎレンガが現存。

成果と課題

100年近い年月を経た現代でも、千葉が果たした首都防衛の歴史と先人たちの技術が残り続けていることは後世に残していくべき技術だと感じました。

この見学会は、現地だけでなく、往復の船の移動時間を考慮すると、半日かかります。県内の遠方から参加すると、1日がかりです。そのため、行きたくても行けない人もいました。その課題を解決するため、オンラインで現場と県内各地を結び、こを着想し、第一分科会での報告である「オンライン見学会」へと繋がります。

開催状況

明治～大正時代に造られた、砲台の配置された人工の要塞島（海堡）は、東京湾には3つあり、2つが現存しています。今回、そのうちの第二海堡を見学しました。

無事上陸できるかは、とても心配でした。見学会前の数日間は梅雨入りを彷彿とさせる天気、新型コロナの感染者数、上陸率は50%等、見学会開催・上陸の難易度が高い中、無事に千葉県建築士会からの参加者22名が上陸できたのは運がとても良いことでした。しかも雲がほぼ1つも無い空、少し冷たい心地の良い風は、第二海堡が我々を迎え入れているようでした。



参加者の集合写真(撮影のため、一時的にマスクを外しました)。
主催は千葉県建築士会君津支部青年委員会ですが、地元である君津支部に加え、県青年委員会からも参加し、普段は話せない人たちとの交流を行うことができました。

事業情報											
主催団体	■	一般社団法人 千葉県建築士会			□	他団体（			助成	無	
活動収支		149,800				250,680			協賛	0 社	
来場者	運営側	建築士会	他団体	計	参加者	会員	建築士	一般	子ども	計	合計
		2	0	2		19	0	1	0	20	22
連携・協力組織	千葉県建築士会君津支部女性委員会(共催)、千葉県建築士会 青年委員会・広報委員会(参加)										

手描き、CADからBIMへの移行

- 手描き、CADによる設計図

2Dの線画
寸法
注釈
凡例
表

- プレゼン資料 - パース
- 仕様

それぞれ個別に用意された情報

- 不整合が起きやすい
- 情報管理に労力を費やす

BIMモデル

設計図
3Dパース
構造解析
エネルギー解析
etc.

一元化され、統合された情報

- 不整合の解消
- 同一の情報源から設計情報が抽出され、目的に応じて様々な形で利用される

©MITO architecture + design

米国の設計図書のスタンダード化

図面表記式と仕様書式の合理化、標準化が早くから進められていた。

- 業界内共通の標準書式
- 記号・符号の有効利用
- 情報が繋がりが合い、整理できるシステム
- 分かりやすく、誰が見ても必要な情報にたどり着ける図面



「スタンダードな設計図書」と聞いて、どんなものをイメージしますか？日本の標準的な設計図書とは？

日本の設計図書は、他の設計図書とは異なり、図面と仕様書の両方が存在し、互いに補完関係にある。これは、設計の過程で、図面と仕様書の両方を参照しながら、設計を進める必要があるためである。また、図面と仕様書の両方から、設計の意図を読み取る必要がある。そのため、図面と仕様書の両方を、しっかりと理解し、活用することが、設計の成功の鍵となる。

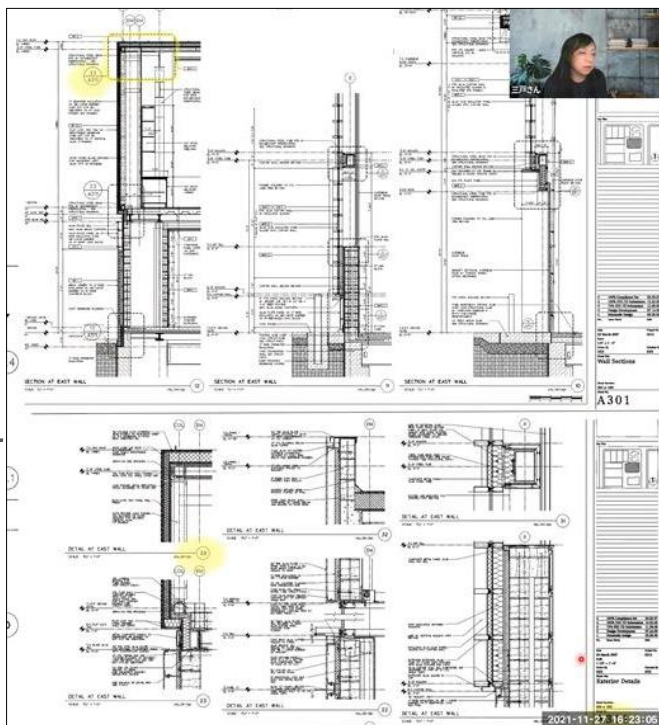
「スタンダードな設計図書」と聞いて、どんなものをイメージしますか？日本の標準的な設計図書とは？



東京建築士会会議室にてウェブセミナーの配信を行った。申込者は約200名、当日参加者は約100名と、テーマへの高い関心が窺えた。

成果と課題

「設計図書」は、様々な建築関係の仕事に携わる建築士にとって、誰もが関係する共通のテーマと言える。また参加者も20代～60代まで幅広い世代がいたので、世代関係なく語り合えるテーマともいえる。アンケートにも続編を期待する声も多く、連続セミナーの可能性も感じた。また東京青年として初のオンラインセミナーだった為、トラブル回避の観点から参加費無料で実施した。諸経費は、BIMベンダーの1社であるグラフィソフトジャパンに講演+協賛を依頼し、全額協賛費で賄えたことも多くの方を集客できた一因だった。



事業情報

事業情報										
主催団体	東京建築士会	他団体（	助成	無						
活動収支	収入	77,000円	支出	69,608円	協賛	1	社			
来場者	運営側	建築士会	他団体	計	参加者	会員	建築士	一般	子ども	計 合計
		7		7		42		49		91 98
連携・協力組織	グラフィソフトジャパン(株)									

開催状況

国として図面表現が確立しているアメリカで長年建築設計をしていた講師の三戸さんを講師に招き、アメリカでの設計図の構成やその背景を解説するとともに、スタンダードな設計図書について、近年よく聞く「BIM」を交えながら詳しく紹介した。

景觀形成

事業名称：建築士の日清掃活動



集合写真

きっかけ
建築士の日に、清掃活動しながら群馬建築士会をPRしよう。

建築士会をアピール



清掃活動

成果と課題

清掃活動を通じて最近では行われなかった、各支部との交流、自分が住んでいる地域との違いなど、たくさん経験でき有意義な時間でした。ですが、まだコロナ禍とゆうこともあり、規模を縮小しての開催になりました。その中でも参加して頂いた会員の方とそのお子さんには、大変感謝しております。これからの課題としては、もっと建築士会のそんざいをPRして、地域の方学生などと、交流を持てたらと思います。

開催状況

清掃活動を始めて令和3年度で10回目を迎えました。昨年は新型コロナウイルスの影響で自粛となりました。10回目の清掃活動は前橋市の開催でおこなわれました。千代田町中心拠点地区市街地再開発事業周辺の、アーツ前橋や白井屋ホテルなどの見学しながらの清掃活動をおこないました。



地元の新聞

事業情報											
主催団体	□	群馬建築士会青年委員会			□	他団体（			助成	無	
活動収支	収入				支出				協賛	社	
来場者	運営側	建築士会	他団体	計	参加者	会員	建築士	一般	子ども	計	合計
		5		5		18			5	23	28
連携・協力組織		群馬建築士会女性委員会									

次世代育成

事業名称：職業体験講座『建築士のしごと』



講和を見聞きする参加者の生徒たちの背中からも、熱意が伝わってきます。

合とたにのタす最た「き
 同、小依講ー。近い建っ
 で前田頼師よ」で業士は
 講の切がをり、とは業士は
 師め青あ務、い女ラは
 をり年りめ小う子ン小
 務に部まて中こにキ学
 めな長しい学ともン校
 るりはた。だを山ののら
 よ甲集事対梨人上高
 う府集事対象県気位校
 指支い務たし涯広生
 令部」局いと生はをま
 が青の長とし学がーで、
 下年素よ山た学つプ、
 り部材り梨職習てして男
 まとが相建体進いての
 し女で談建体進いての
 た。性を築験セまて、
 の！け会座

未来の建築士養成計画（小・中学生編）

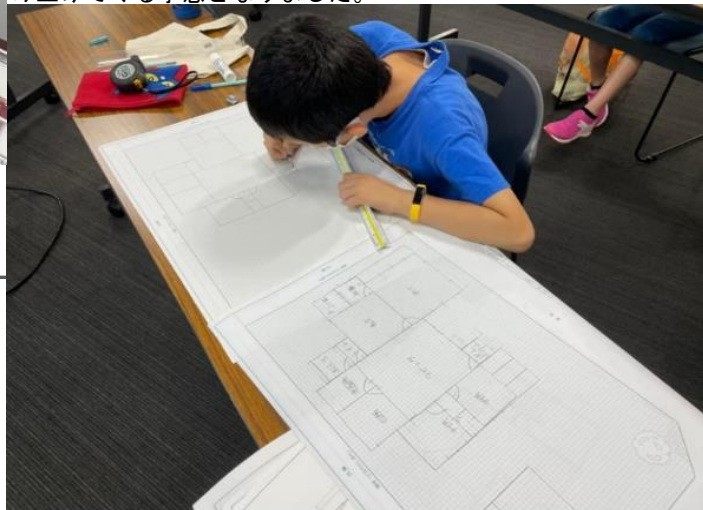
開催状況

講座の時間は3時間。「実務として行った図面や模型を見てもら
 う」から、「建築士のしごととは…」「部屋や家具などの大き
 さの感覚をつかもう」という座学を1時間行ったのちに、方眼紙
 に「自分が住みたい家」という設計テーマで平屋建て住宅の平
 面図の作図を2時間行うという時間割でした。丁寧に説明はしよ
 うものの小学生に図面が描けるのか？すぐに飽きてしまうので
 はないか？など心配は尽きませんでした。実際に作図が始ま
 ると子どもたちの集中力に圧倒されました。「ペットの部屋」
 「野球が出来る部屋」「滑り台のある部屋」など夢の詰まった
 家を楽しそうに描きまくり、時間が足りない…という子どもた
 ちがほとんどという結果に。講師の我々も子どもたちの作図を
 とおして、建築士を目指した初心を思い出し胸に熱いものがこ
 み上げてくる事態となりました。


講師が関わった仕事の資料を見る生徒たち。
これは何？ここはどうなっているの？と質問が尽きない。

成果と課題

講座後の参加者アンケートによると、「とても楽しかった」の
 回答が100%でした。建築士のしごとの遣り甲斐や面白味は伝
 わったと思います。
 山梨県生涯学習推進センターからは、翌年の講座のオファーも
 いただいていますので依頼者からの反響の良さも感じました。
 今回は小学校4年生から中学3年生が対象の講座でしたが、生徒
 たちの職業選択の時期まで設計を好きでいてもらうための活動
 も必要であると感じています。


作図に没頭し、鉛筆を握る手が止まらない生徒たち。
講師も付け入るスキがない状態…。

事業情報

主催団体	□ 山梨県生涯学習センター 収入	□ 他団体（		
------	---------------------	--------	--	--

次世代育成

事業名称：甲州市立勝沼中学校職業講話『建築士』



事例や実績を伝えることで建築士に対する理解を深めた講和



子どもが最も興味を引く建築模型の解説

成果と課題

講座後に受領した生徒たちの感想からは、建築士試験の大変さや仕事の責任の重さを感じつつも、やりがいや楽しさ、感動が得られる職業と理解された。「家族を大事にして手伝いをしながら責任の重い仕事ができるようになりたい」と記した生徒もあり、伝えたことが印象深く残ったようだ。

講話では「コミュニケーションを通じた協力関係や問題解決」を最も大切なことと伝えたが、建築士だけでなくどんな仕事にも、また日常生活にも役立てることだと認識し、多感な中学生時代を心豊かにたくましく目標をもって生きてほしい。

なお関プロ大会で準優勝を獲得した発表動画は、オヤジネタが過ぎたのか純粋な中学生には全くウケずに大スベリであった。青年部にはその名のごとく若い感性と価値観が必要である。

開催状況

公共施設や学校建築の設計業務で子どもたちに建築設計の仕事を紹介することがあり、今回はその内容に事前に与えられたテーマを加え中学生向けに編集して講和を行った。

- ・ 国家資格である建築士の仕事の内容や設計事例
- ・ 設計業務で制作した建築模型や設計図面の解説
- ・ 仕事のやりがいや喜び、苦労や必要な努力
- ・ 建築士度チェックを踏まえてどうすればなるのか

また資格学校の製図講師でもあるので、一級建築士試験までに必要な学歴やキャリア、合格率や平均年齢、働きながら学ぶ上での心構えなど、若いうちから意識して勉強し続ける大切さを伝えた。最後に建築士会の活動を紹介するために、令和3年度関プロ茨城大会での発表動画を放映した。



緻密に描かれた設計図面を見て建築士の仕事を知る

事業情報

主催団体	☐ 建築士会	☐ 他団体（	）	助成	無						
活動収支	収入	0	支出	0	協賛	社					
来場者	運営側	建築士会	他団体	計	0	会員	建築士	一般	子ども	計	合計
		2	0	2		0	0	1	32	33	35
連携・協力組織											
アクションプラン	建築士の社会的評価 「こどもたちに建築と建築士を知ってもらおう」								達成度	100	%

未来の建築士養成計画（中学生編）

きつかけ

す員たる徒た生部判高で、はわ令和き
 るの職目た職のにく、大れた3
 24種のち場キー受毎当勢の夏年
 時業はでの体ヤ職業、定のキ休8
 限種、あ将験リ業、期講ヤみ月
 ので、建、来のア講甲期講ヤみ月
 総、築、や代教話州に座ンのに
 合生士生職わ育「市開にセル職山
 学徒の徒業りの立催参ル業梨県
 習はほか選に一講勝さ加体県
 でそから択社環師沼れしが講涯
 あるのにのに会で、頼学こどる「習
 う弁要向人、コを校ともほ建セ
 。ち護望けにコ受かにもたの士
 2士、をてよ口受かにもたの士
 つ、踏のるナけらなたの士
 の保ま意職禍た、築た、の人の
 講育え義業で、築た、の人の
 話士て付講見中士、満、のし主
 を、選け話送学会こ足ぶと、
 選挙ばをでら2青の度り、
 択芸れ図生れ年、年評も、

事業名称：浅間神社巡り（富士御室浅間神社編）



きつかけ

新型コロナウイルスのまん延により、みんなが集まってる建築士会活動が出来なくなっている状況下、関ブロ茨城大会の第2分科会『BEN↓T』と「建築」を見て、建築と食巡りなら少人数でも出来るものではないかと思ひ、ゆる〜い感じで始めてみることにした。

富士山周辺の浅間神社と食をゆる〜く巡る！

富士御室浅間神社里宮（富士河口湖町勝山） 富士山山中最古の神社とされる



マルシゲ（富士河口湖町勝山） おすすめはサーロインステーキ

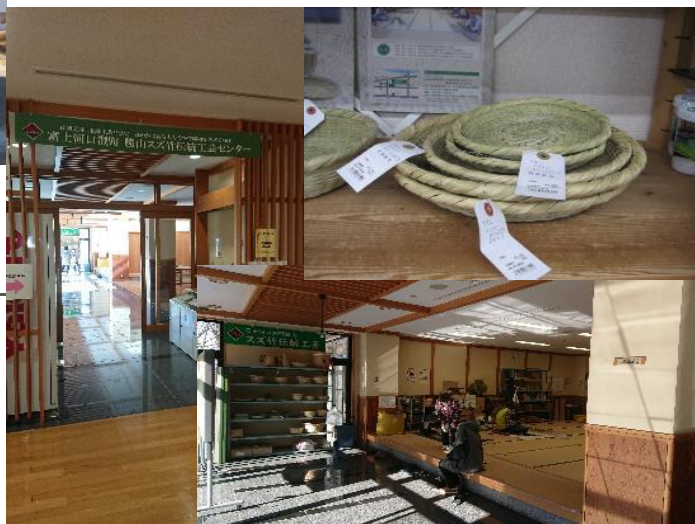
新型コロナウイルスの影響で今までの生活が一変し、県外への移動がし難い状況の今、観光産業では『マイクロツーリズム』が注目されている。今回の浅間神社巡りも『マイクロツーリズム』であり、また、『地域に根ざす建築士』として自分の住んでいる地域を巡ることで、普段から見たり聞いたりしていることを『景色の一部』としてだけでなく『改めて見直す』機会となったことは自己研鑽として有意義であると思われる。

今後の課題としては、『個人の活動』ではなく、『建築士会での活動』となるよう、新型コロナウイルスが早く収束することを願っている。

巡る建物については、北富士支部には富士山世界遺産構成資産である浅間神社が複数あり、これならば継続して巡ることが出来ると思い、迷うことなくこれに決めた。

巡る上の約束事は神社の参拝と周辺で食事をする以外に設けず、『ゆる〜く巡る』ことで準備等に時間を取られないように実施のハードルを下げ、『いつなんどき、誰にでも出来る』ことを目的とした。

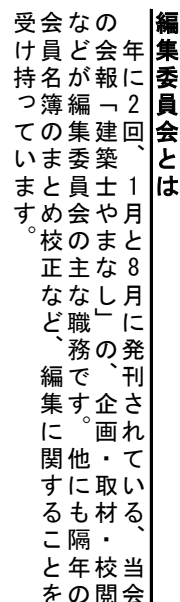
今回は富士山山中最古の神社とされる富士御室浅間神社とその周辺を巡ることとし、神社参拝→昼食（マルシゲでステーキ）→スズ竹伝統工芸センターというルートとした。



スズ竹伝統工芸センター（富士河口湖町勝山） 山梨県郷土伝統工芸品
に認定されているスズ竹のザルは野菜の水切り等に使われる

主催団体	☐	建築士会			☐	他団体（			助成	無	
活動収支	収入	¥0			支出	¥4,000			協賛	社	
来場者	運営側	建築士会	他団体	計	参加者	会員	建築士	一般	子ども	計	合計
		1	0	1		0	0	1	0	1	2
連携・協力組織											
アクションプラン	建築士の資質・人間的成長「若手建築士による建築士活動の発信を促し、未来をつくる」								達成度	50%	

事業名称：会報「建築士やまなし」制作



将来の山梨を創造する委員会活動

↑76号掲載記事「ブラ散歩@朝日町通り」進藤先生より青年部当時取組み等の説明を現地で受ける



各号編集会議は、先ず発刊3ヶ月前程に1回目の企画会議を行います。その時の情勢や前例などを確認しつつ、原稿依頼や取材などを行います。その後、会員や編集委員により寄せられた原稿を、2～3回の校正会議によりまとめていきます。

中でも校閲作業では、原稿を執筆者の意図に正しく近づけていきます。言葉の言い回しも考慮し、読者にわかりやすく手が入っていく様子は、私が委員になって最も驚いたところです。言葉の大事さなど、様々な思いやり、毎回とても貴重な経験をさせていただいています。

↑ 80号の編集会議、印刷会社との校正刷の最終調整

編集委員会よりお願い

会報では内容充実を目指し、活動紹介や様々なお知らせに加え、この数年は「ブラ散歩」など、編集委員の手で地域の再発見を行ない記事にしています。

建築士として、会員間や社会との情報共有に必要な機会を、更に磨いていくために、会員の皆様には、ご意見及び、ご自身やまわりの実践活動報告等をお寄せいただける様に、皆様、よろしくお願いいたします。

尚、多くの方の目に触れるように、発刊と同時にPDFデータをネットに掲載しておりますので、こちらをご利用お願いいたします。<https://www.ykenchikushi.org>



事業情報

主催団体	☐				☐	他団体（		
------	--------------------------	--	--	--	--------------------------	------	--	--

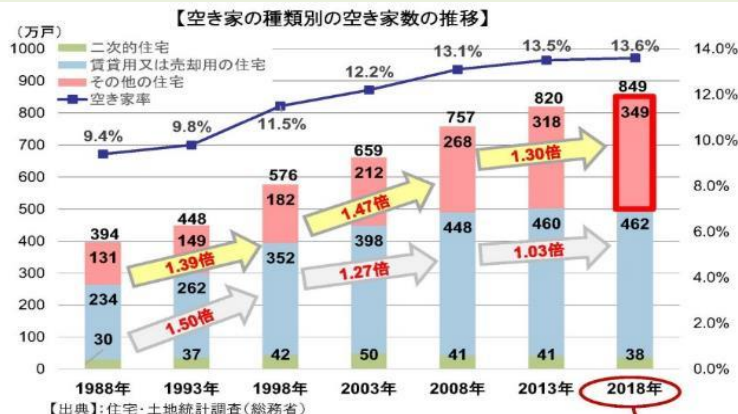
空き家の総数 20年で全国レベル約1.5倍(576万戸→849万戸)に増加

山梨県は空き家率全国ワースト1位

「総務省統計局による平成30年住宅・土地統計調査」による山梨県のデータ

総住戸数 約423,000戸 内 空き家90,000戸 空き家率 21.3%

きつかけ
中央市空家等対策審議会委員として、平成29年（2017）より建築士会員として参加する。中央市空家等対策計画の審議。また、連合会の街中まちづくり部会として、全国大会の部会に参加しています。



中央市空家等対策計画



平成29年10月
山梨県 中央市

やまなし空き家相談手帳

【2022/2/3時点版】

山梨県空き家等対策市町村連絡調整会議

開催状況

○連合会 空き家まちづくり部会の報告

- ・ 全国大会（広島大会）
 - 「前橋市における住民主導のエリアマネジメント体制構築に向けた取り組み」
 - 「ただ今、実家空家活用計画中！」
- ・ 街中（空き家）まちづくり情報シートの紹介
 - 「かごしま空き家110番」

○中央市における空家等の課題の検討

○空家等の利活用施策への協力

○良質な住宅ストックの活用への協力

* 相談会への参加(2018.2019)

* 空家等に関する相談窓口

成果と課題

- ・ 空き家自体の対策だけで解決する課題ではない。
→積極的に住民協働に繋がる活動を実施。
- ・ 空き家所有者のストレス、マイナス負動産。
→信頼できる相談者、地元の建築士。
- ・ どうすれば適切な管理が維持できるのか。
- ・ どうすれば空き家を早く流通させることができるのか。
→地域、関係団体等との連携による流通・利活用の促進。
- ・ 終活・ライフスタイルや生活困窮者等への空き家対策等、
考えられる課題をつぶして地域貢献を。

事業情報

主催団体	☐	建築士会			☐	他団体（			助成	無	
活動収支	収入				支出				協賛	社	
来場者	運営側	建築士会	他団体	計	参加者	会員	建築士	一般	子ども	計	合計
		0	0	0		0	0	0	0	0	0
連携・協力組織		山梨県、中央市、他関連団体									
アクションプラン	建築士の資質・人間的成長「若手建築士による建築士活動の発信を促し、未来をつくる」								達成度	達成度 %	

次世代育成

事業名称：やまなし建設産業担い手確保・育成アクションプラン 建設産業説明会



若手技術者の生徒に対する講話の様子

とての向でシで成健全令き
にな役今けのヨ、産全和につ
り割回た各ン≡学な二かけ
ま建重そプアや官発展に
し設要のーツ『ま連を「地
た業性、ーチ』し会指域
。業の環とすに成産がし、の
魅職しる、さ業立建「守
力後て、こ建れ、担ち設り
をのキ高設、小手上げ産手
伝ヤ校に業学確られ業で
るリ生業の生保れある
説ア対まのしいら育し建
明ツ象いた手大成た。設
会プに建。確学ア。保産
を開に設保生クそ・業
くつ業にまこ育の

「地域の守り手」を確保せよ！



技術者のみならず経営者に対しても多くの質問をいただく

成果と課題

高校生に近い世代の講師を選定したことで、建設業の役割や重要性だけでなく、就職するまでの心境や、就職後の仕事の様子を体験を踏まえて伝えることができ、多くの生徒に建設業で働くことをイメージしてもらうことができました。

説明会の最後に質疑応答の時間を設けましたが、設定時間をオーバーするほど、たくさんの質問があがりました。特に2年生からの質問が多く、就職や進学を間近に控えた高校生に入職をアプローチすることの重要性を感じました。

今回の講師は施工者ばかりでしたので、次回は設計者の講師も選定してもらうことで、より多くの魅力を伝えることができ、建設産業への入職者を増やすことにつなげることができると感じました。

開催状況

山梨県立甲府工業高等学校の建築科と土木科の1・2年生(130名)を対象に開催しました。内容は、建設会社(建築)、建設会社(土木)、測量設計会社、山梨県職員(土木)のそれぞれ若手の職員が講師となり、入職までの過程や入職後に経験したこと、それぞれが感じる建設業の魅力について話をしました。多くの生徒がメモを取りながら、真剣に耳を傾けてくれました。

また、別日に山梨県立甲府工業高等学校定時制の建築科の1～4年生(30名)を対象に開催しました。内容は、建設会社の若手職員と経営者、県職員が講師となり、建設産業の魅力と同時に、入職後のキャリアアップや資格取得の重要性等について話をしました。

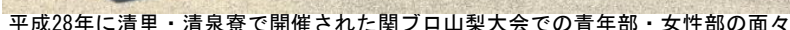


定時制の生徒への説明会の様子

事業情報

主催団体	☐ 建設産業担い手確保・育成産学官連携会議	☐ 他団体 ()	助成	無
活動収支	収入	支出	協賛	社
来場者	運営側	参加者	子ども	計 合計
	建築士会	他団体	計	
	1	13	14	
	0	0	12	160 172 186
連携・協力組織	山梨県、山梨県立甲府工業高等学校、(一社)山梨県建設協会、(一社)山梨県測量設計業協会			
アクションプラン	建築士の社会的評価 「こどもたちに建築と建築士を知ってもらおう」		達成度	50 %

事業名称：青年部会の軌跡



山梨県建築士会青年部会は、1977年（昭和52年度）に設立されて、今年度に至るまで、4年に渡り引き継がれて、今年度の部会である。諸先輩方においては、関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会（通称：関ブロ）での活躍をはじめ、自己研鑽できる勉強会・建築見学会などを積極的に開催し、活発に活動されていたと伺っている。現在では会員減少の影響もあり、活動が縮小し、建築士会員の方々からも「青年部って何をやっているの？」と聞かれる事も少なくなく、身近な存在になっていない事を痛感させられている。

今更ではあるが、過去を振り返りつつ、現在の青年部活動について紹介する。

きつかけ

青年部って何してる？



夏のワークショップ 新聞紙ドームの作製体験

継続している活動では、地域の方々に喜んでいただいている反面、依頼され行っている影響からマンネリ化している部分もあり、今後新しい仕組みを検討していく必要がある。

コロナ禍によるこの2年間は活動が制限されたが、山梨県建築士の集いの様に開催方式を変更し、その時にできる範囲で活動する事は重要である。集いを軸とした取組みで各支部の活動に変化が生まれ、少しずつ成果が出始めていると実感している。

関ブロ大会は、10年に1度のサイクルで開催県として役割を担う。次の山梨大会は順調にいけば令和9年で、青年部設立50周年となる年にあたる。前4回の開催に恥じぬよう、活発に活動し土台作りを進め、次世代へ継承しなければならない。

これまで、児童を対象とした夏のワークショップ・県民の日イベントへの出展を主な活動とし、建築士会の存在を発信する活動を継続してきた。開催される場所で地域性もある為、青年部全体での活動というよりは、各支部に役割を担ってもらい活動している形が強い。近年では、山梨県建築士の集いの開催、生涯学習推進センターより依頼された職業体験講座の開催に力を入れ、活動の幅を広げている。

関博大会においては、諸先輩方のご活躍により昭和61年に初めて山梨での大会が開催されて以来、計4回に渡り開催県として大会を支えてきている。大成功であった平成28年の清里・清泉寮での大会は記憶に新しい。



県民の日イベントにおける折り紙建築ブース出展

事業情報

主催団体	☐				☐	他団体（			）		助成	無	
活動収支	収入				支出						協賛	社	
来場者	運営側	建築士会	他団体	計	参加者	会員	建築士	一般	子ども	計	合計		
		0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	
連携・協力組織													
アクションプラン	建築士の資質・人間的成長「若手建築士による建築士活動の発信を促し、未来をつくる」									達成度	50	%	

一級建築士試験「設計製図の試験」受験者向け講習会



きつかけ

総務企画委員会と青年委員会を中心として毎年実施してきた一級建築士試験受験者向け施設見学会が2年続けて中止となり、コロナ過でも「何かやろう」ということで会議を重ねた結果、W E B 勉強会を企画することになりました。

コロナ過でも「何かできるはず」

右) WEB講習会の様子



成果と課題

FacebookやYoutubeなどを使った活動をしていこうと考えていたが、なかなか実行できていませんでした。今回は、講習の一部を青年委員会のYoutubeチャンネルで公開し、視聴回数も1,000回を超えることができました。また、合格発表後には「合格おめでとうメール」を送り、受講してくれた人が建築士会に入会し、今度は運営側として参加してもらえればと考えています。今後も建築士会のPRのためSNSを使っていこうと思います。課題としては継続して更新していくことが大切なのかなと思います。

7月21日の課題発表から時間がない中でチラシを作成し資格学校の受験生へ配布してもらい、Facebookやホームページで告知をしました。講習会のパワーポイント、台本作りなどを手分けして準備を進めていきました。講習の内容は、建築士会を知ってもらうための「建築士会の紹介」、試験の際に動揺しないための「試験への心構え」、課題の意図を考えるための「住生活基本計画の紹介」、集合住宅の計画に必要な「法規について」、納まりや階高の設定の理解を深めるための「RC造 集合住宅 施工写真の紹介」を実施しました。



WEB講習会当日、隣の部屋での運営の様子

事業情報											
主催団体	☐	総務企画委員会・青年委員会			☐	他団体（			助成	無	
活動収支	収入	0			支出	0			協賛	社	
来場者	運営側	建築士会	他団体	計	参加者	会員	建築士	一般	子ども	計	合計
		10		10				40		40	50
連携・協力組織											

事業名称：各支部交流会



左：空き家を転用したゲストハウスの説明を聞く様子。右：懇親会にて地元企業と情報交換する様子。

青年委員会の主要事業の一つで、例年行われています。各支部の持ち回りで、地域の建築や活動を見学し、支部の垣根を超えて会員同士の交流を図るための活動です。

建築士会的活動を・・・
地域（まちの住人・行政等）とのつながりを発見し、深めながら、会員同士の交流を深めよう

開催状況

初めての2支部（佐野市部・足利支部）共同開催となりました。
参加支部・参加者の減少のなか、継続して活動するための試み
です。

足利市では明治期に建てられ茶室・ＲＣ造の正教会・足利市政による空き家再活用計画の一環になる木造倉庫をゲストハウスに転用した建物を、担当者・オーナーの説明を聞きながら見学しました。その後、ボーリング大会では各支部混在で豪華？景品をかけて熱い競い合いを繰り広げ、佐野市に移動して懇親会を開催しました。懇親会では地元企業のＰＲブースを設け、交流の幅を広げる試みも行いました。



足利ハリストス教会にて、教会の方から説明を受ける様子。
建替え時の図面、写真など詳細な記録を拝見させて頂きました。

成果と課題

見学会では足利市の担当者等により、多角的な説明が受けられたり、ゲストハウスではそこに住みながら運営している女性の話を聞いたり、逆に質問を受けたりと建築士会ならではの活動となりました。

来年度も共同開催（鹿沼市・日光市）で行うことが決まり、良い方向性が出たのではないかと思います。

今後は周知の方法等を検討して、より多くの会員に参加を呼びかけて行きたいと思います。



1901年に移築された茶室を見学。日本庭園と共に街に美しい景観を形成していました。市の担当者からは維持管理の問題点なども伺いました。

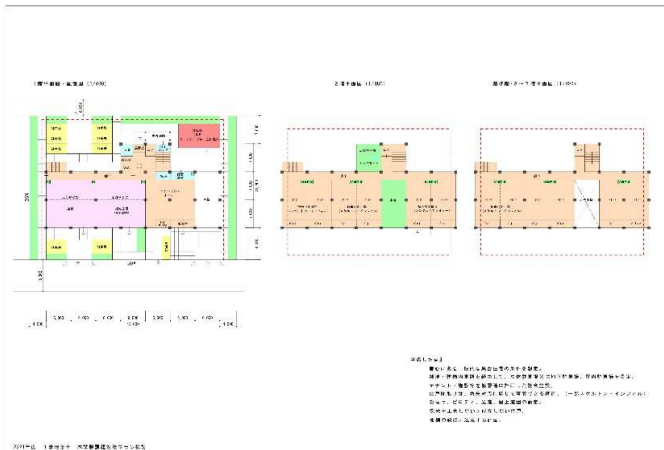
事業情報											
主催団体	□	一般社団法人栃木県建築士会 佐野支部・足利支部			□	他団体（ 地元企業5社 ）		助成	有	1ヶ所	
活動収支	収入	¥ 369, 000- (内県本部助成金 ¥ 50, 000-)			支出	¥ 343, 000-		協賛	0	社	
来場者	運営側	建築士会	他団体	計	参加者	会員	建築士	一般	子ども	計	合計
		11		11		12		6		18	29
連携・協力組織		足利市役所									
アクションプラン		建築士の資質・人間的成長 「若手建築士による建築士活動の発信を促し、未来をつくる」							達成度	70	%



きっかけ
コロナ禍により感染予防の観点から、人が集まる事が難しい世の中となり、会員同志の繋がりが希薄になりつつあります。皆苦しい状況だと思いますが、繋がりを絶やさず、活動できないかと思ひました。

リモートでも青年委員会で繋がり、活動しよう

対面とリモートのハイブリッドで会議を行いました。



令和3年度の一級建築士製図試験の回答例を埼玉建築士会青年委員会
フェスブックにて公開しました

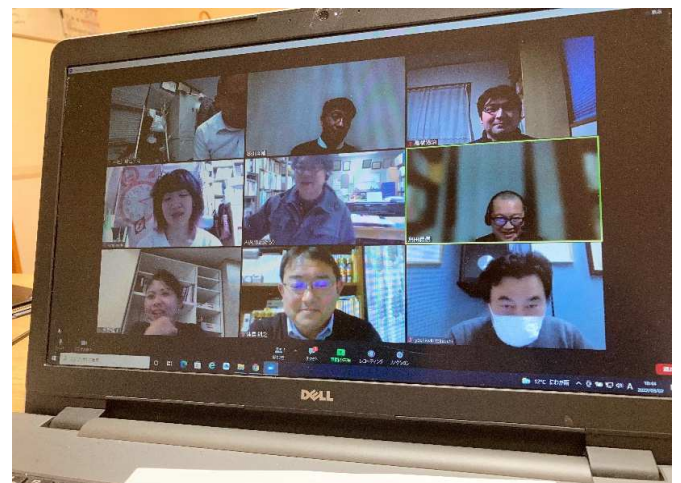
成果と課題

リモートでも会議などをする事で、近況の報告や仕事の相談などもし、繋がりを維持しました。また、リモートに関する知識や情報も交換でき、普段の仕事に活用できる事もありました。

今後の課題としては、感染状況がどうなるか分からないので、リモートによる会議や情報交換を踏まえ、どのような活動が可能なのか、柔軟に対応していく事と感じました。

開催状況

コロナ禍でも状況下でどのような活動が出来るのか、リモートによる会議を行い話し合いました。リモートによる会議ではどうしても話を詰める事が出来ないので、リモートと対面のハイブリッドで会議をしました。これにより、遠方でも会議に参加しやすくなり、対面の人数も減らす事が出来、感染予防にもなります。このような会議でどのような活動が出来るか話し合い、一級建築士製図試験の回答例を埼玉建築士会青年委員会のフェスブックページで公開し、会員拡大の活動をしました。



コロナ感染の蔓延時はリモートのハイブリッドで会議を行いました。

事業情報											
主催団体	☐	(一社) 埼玉建築士会・青年委員会			☐	他団体 (					

地域活性化

事業名称：市（ICHI）in 栄



長屋門や蔵に囲まれた古民家で賑やかに開催されました。

建築士が地域を考えるコンシェルジュとして潜在する魅力の発信を行い、人々の流れを呼び込むことで地域全体の活性化を図る。

きつかけ

つくばの周辺市街地である栄地区は市内を流れる桜川流域に位置し、農業が盛んで美味しい野菜や果物が作られていて、趣のある長屋門や古民家のある集落、緑あふれる景色など、どこか懐かしい雰囲気の中に隠れた魅力がたくさん詰まっています。

建築士として古民家利用や空き家問題などの技術面だけではなく、この魅力的な食・農・暮らしを総合的に提案することでまちづくりに関わりたいと思います。

きつ
かけ



建築士会はものづくりワークショップや耐震改修相談なども行いました。

成果と課題

今回建築士会筑波支部としては初めて栄地区でのイベント開催でしたが、今後は同じく桜川流域でつくばの周辺市街地である小田地区や北条地区などの他の地域地区も巻き込んで継続していきたいと考えています。

各地の市街地活性化協議会を始め、地域の方々との交流や意見交換を行い、単なる一過性のイベントで終わらせずに地域の良さを伝えるコンシェルジュの立場となる事で今後も地域と関わりを持ち移住促進や空家活用などを積極的に行っていきたいです。

イベントQR



筑波支部QR



ちんどんパレードがまちを練り歩きイベントの周知と会場への誘導を行いました。

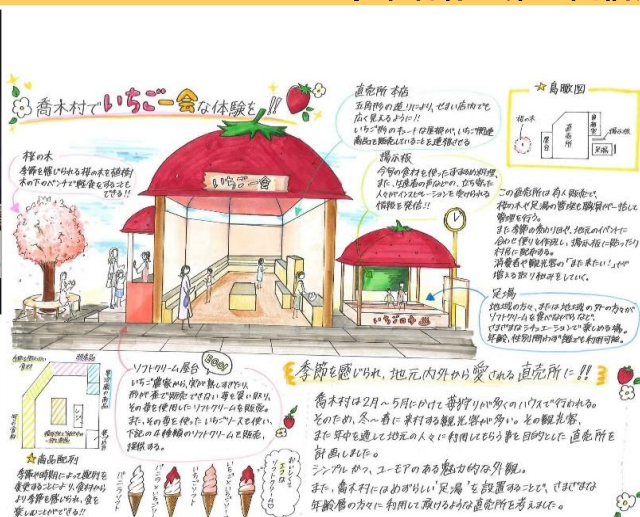
開催状況

会場は長屋門を構える古民家。コロナ禍での開催となった為、いばらきアマビエちゃんの登録（茨城県の感染拡大防止システム）をはじめ、検温や消毒の徹底、店舗前のソーシャルディスタンスの確保や入場制限など、しっかりとした対策を行いました。筑波大学の研究室による地域活性化ロゲイニングin栄や長屋門の活用を提案するつくば建築研究会の門泊のPRも同時開催され、天候にも恵まれ2日間で約1700人の来場者がありました。きちんと準備されテーマを持った雰囲気の良い会場作りが出来ているとの声もあり、自分たちの意思表示をしっかりとすることで、結果として好評価を得る事ができました。

事業情報											
主催団体	☐	(一社)茨城県建築士会筑波支部			☐	他団体（			助成	無	
活動収支	収入	50万円			支出	50万円			協賛	0社	
来場者	運営側	建築士会	他団体	計	参加者	会員	建築士	一般	子ども	計	合計
		30	20	50		30	20	1,150	500	1,700	1,750
連携・協力組織		後援：つくば市 協力：栄市街地活性化協議会									

次世代育成

事業名称：第13回信州環境ECOコンテスト



きつかけ
長野県らしいもの・若者と交流できるもの・未来の建築士会を知ってもらう事業として、平成20年から始まったコンテストです。工業系の学生の自由な発想を大切に地元愛の醸成に繋がればと建築を志す若者と交流を行っています

学生の自由な発想を大切にした
信州型コンテスト

令和3年度の受賞作品



県内工業高校でのワークショップの様子
コロナ感染対策として、マスク着用・距離をとって開催しました。

成果と課題

過去15年に渡りコンテストを続けてきたことにより、学校としても建築のプロと交流する事で、普段の授業では得られない経験となり、より目標が明確になる学生もいるそうで、学校側からワークショップの依頼が来るほどになりました。引き続き継続することで、建築士を目指す若者が一人でも多く出ていただければ何よりです。

今後の目標としては、行政などとの連携により、出場作品が具現化できたりすれば、より面白いコンテストになるのではないかと考えます。

開催状況

本年度のテーマは、地域に根差した特産物直売所です。コロナ禍により、ワークショップを自粛する学校が多い中、建築の概念にとらわれない学生ならではの自由な発想の作品など185作品の応募を頂きました。

例年、一次審査は書類選考にて行い、2次審査をプレゼンテーションによる審査としてまいりましたが、新型コロナウイルスの影響を考え、本年度の2次審査についてはプレゼンテーションを動画で送って頂いての審査により行いました。



本年度コンテストのポスターデザイン

事業情報											
主催団体	☐	(公社) 長野県建築士会			☐	他団体 ()			助成	無	
活動収支	収入	士会予算より			支出	35,323円			協賛	0	社
来場者	運営側	建築士会	他団体	計	参加者	会員	建築士	一般	子ども	計	合計
		30	2	32		185			185	217	
連携・協力組織	令和3年度後援：長野県、長野県教育委員会、長野県木材協同組合連合会、信州木材認証製品センター										